

新国立競技場整備事業

～もっと知っていただくために～

A 周辺環境との調和

神宮の杜と調和する市民に開かれたスタジアム

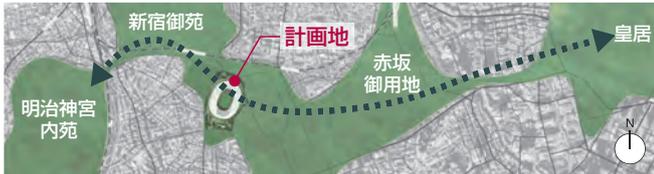
歴史的な緑を継承する明治神宮内苑から皇居へとつながる神宮の杜。エリア一帯の貴重な緑を未来に残すために、100年後を見据え、大地に根ざす「生命の大樹」として周辺の自然と調和し、市民に開かれた「杜のスタジアム」を創ります。



緑のネットワークを形成する杜のスタジアム

明治神宮内苑から皇居をつなぐ緑のネットワーク

- 明治神宮外苑の豊かな緑に包まれたスタジアムは、明治神宮内苑・新宿御苑・赤坂御用地・皇居とつながる緑のネットワークを形成します。



豊かな杜と里の風景を奏でる「大地の杜」

周辺の地域特性を活かした3つのゾーニング

- 明治神宮外苑の「杜」と市街地の「里」が接する場所の特性を活かし、周辺の緑と調和する「大地の杜」を整備します。



「深緑の杜」、「大樹の里庭」、「水辺の里庭」から構成される「大地の杜」

建物の高さを抑えたフラットな屋根構造

50m以下に建物の高さを抑え圧迫感を軽減

- 最大8万人収容対応可能な観客席をコンパクトに配置し、その上部をフラットな屋根構造にすることで、建物の高さを50m以下に抑え、明治神宮外苑の景観との調和を図ります。



西側立面図イメージ

市民に開かれたスポーツクラスターの拠点

市民の活動をいざなう「大地の杜」と「空の杜」

- 周辺の公園とつながる「大地の杜」や周長約850mの屋上空間「空の杜」により、市民が散策やスポーツに親しむことができる「スポーツクラスターの新たな拠点」となるスタジアムを実現します。



空の杜イメージ

注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

日本の気候・風土・伝統を踏まえた木と緑のスタジアム

日本の気候・風土に適した日本の伝統建築の特徴である軒庇（のきびさし）をスタジアムの外周に設けます。日射と雨を遮り、柔らかな陰影をつくる軒庇は建築と環境を緩やかにつなげ、自然と調和する日本らしいスタジアムを創出します。



南側外観イメージ

柔らかな陰影をつくる軒庇

周囲の木々と調和するスギの縦格子で覆われた軒庇

- スギの縦格子で覆われた軒庇を外周に設けます。軒庇がつくる柔らかな陰影がスタジアムを周囲の木々に溶け込ませ、柔らかなスギの質感が訪れる人々を温かく迎え入れます。
- 軒庇の上部の緑により、明治神宮外苑の杜と建物との調和を図ります。



南東側外観イメージ

周辺環境になじむ和の灯り

- 日本の伝統的な灯り（「ぼんぼり」「灯籠」「提灯」等）をモチーフとし、スタジアム全体を柔らかな光で演出します。



南側外観(夜景)イメージ

伝統的意匠を用いたおもてなしの空間

日本らしさが感じられる和のデザイン

- 大和張りなど、日本の伝統的意匠や、木を用いた温かみのあるデザインを内部に施し、日本らしさが感じられる空間とします。



エントランスイメージ

注) パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約 10 年の姿を想定しております。

国産木材の利用による世界に誇れるスタジアム

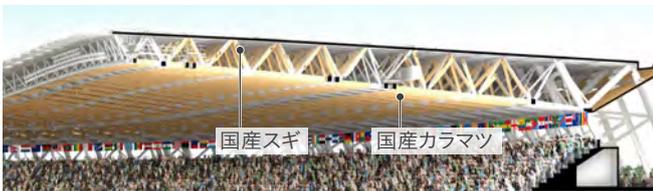
大屋根のトラスには、木材と鉄骨を組み合わせた部材を採用し、全ての観客席から木の温もりが感じられるスタジアムとします。また、建物外周の軒庇や室内にも積極的な木材利用を図り、世界に誇れる日本らしいスタジアムを実現します。大屋根や軒庇の木材は、森林認証を取得した国産材を用います。



観客を包み込む木材を利用した大屋根と軒庇

大屋根のトラスへの木材利用

- 大屋根のトラスに用いる部材は十分な強度のある鉄骨を主体としつつ、地震や強風による変形を抑えるための木材を組み合わせたものとします。
- トラスの木材には、カラマツとスギの2種類の集成材を用います。



大屋根のトラスへの木材利用イメージ

建物を囲う軒庇にスギの縦格子を使用

- 建物外周の軒庇の軒裏にスギの縦格子を使用します。スギの温かみのある質感が日本らしいスタジアムの外観を創ります。



外装軒庇裏への木材利用イメージ

建物の内外部に積極的に木材を利用

外部の木材に適した利用方法

- 外部の木材は、劣化の主要因である雨が掛かりにくい大屋根の内側や軒裏に利用します。
- さらに防腐、防蟻対策として加圧注入処理を施すことで、耐久性を高めます。

木に包まれた内部空間

- 内部にも木の質感が感じられる仕上げを施し、観客を温かみのある空間で包み込みます。
- 選手更衣室内のロッカーは、強度の高い国産材のCLT材※を用います。
- 屋外の案内サイン等、自立サインとしての強度が要求される部分に、国産材のCLT材※を用います。



ラウンジイメージ



選手更衣室イメージ

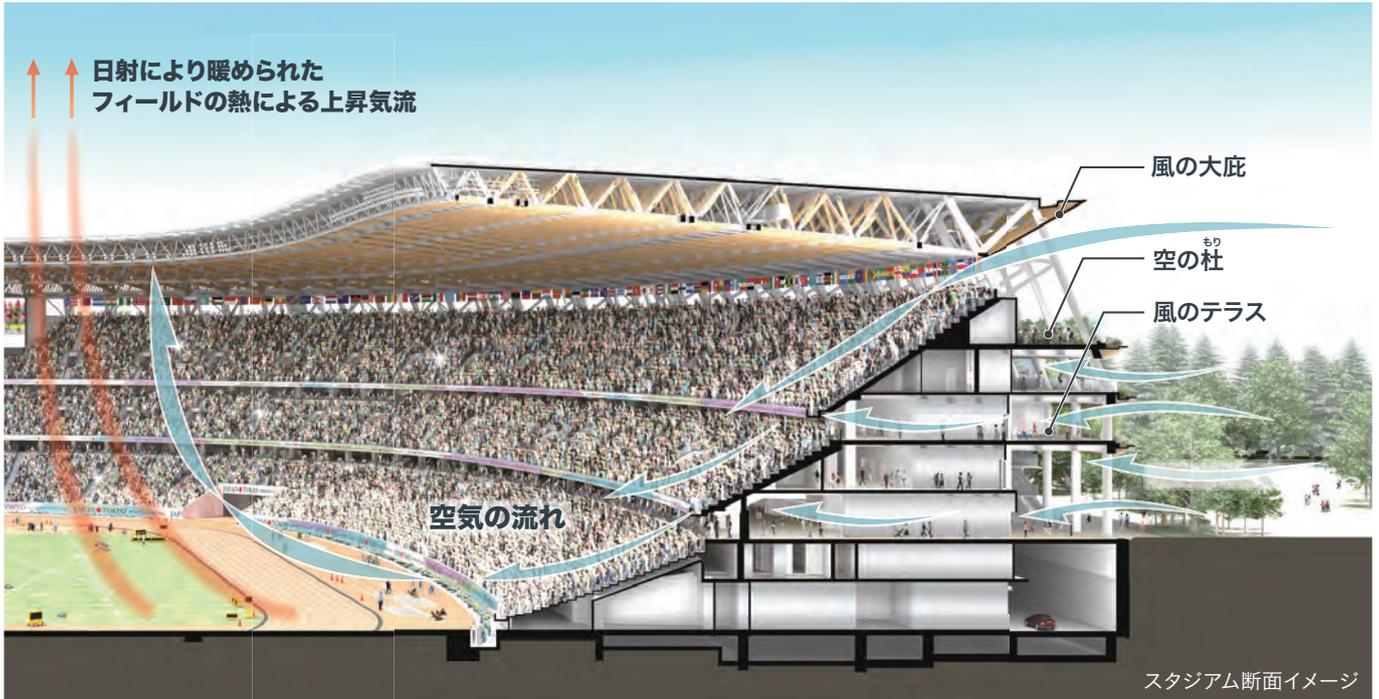
注) パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

※ Cross Laminated Timber 材：木材を直交して積層接着した材

D 観客席の温熱環境の改善（暑さ対策）

自然の力を活用した観戦環境の向上

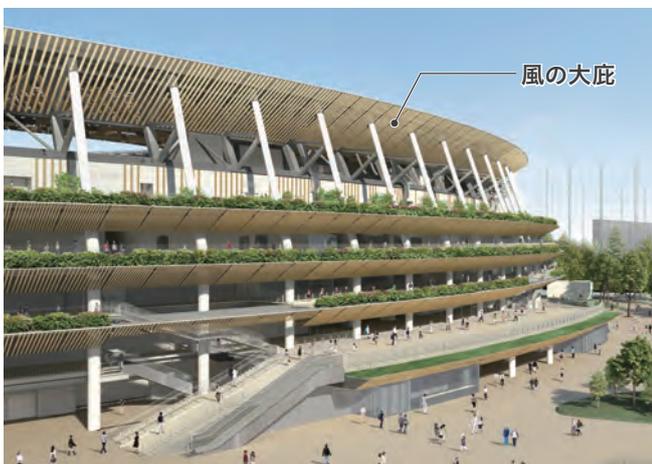
フィールドから発生する熱や湿気、観客から発生する熱気等を、「風の大庇」や「風のテラス」から取り込む自然の風による気流循環で排出し、観客席とフィールドの温熱環境を改善します。また、自然の力に加えて「気流創出ファン」や「ミスト冷却装置」等を設置し、更なる温熱環境の向上を実現します。



卓越風を活かし観客席の温熱環境を改善

スタジアム内に風を取り込む「風の大庇」と「風のテラス」

- 季節ごとの風を効率よく取り込む「風の大庇」を設置します。上層スタンドへ風を導き、フィールドが日射により暖められることで発生する上昇気流を有効利用して、スタジアム内の熱と湿気を上部から排出します。
- 「風のテラス」からコンコースや下層スタンドへ風を取り込み、観客席の温熱環境を改善します。

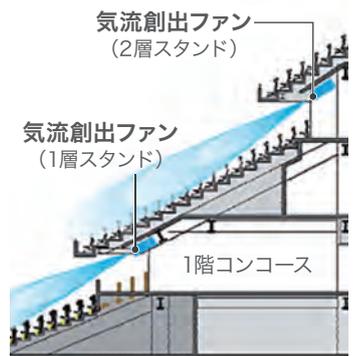


「風の大庇」イメージ

高性能な設備機器による暑熱対策

体感温度を低減させる「気流創出ファン」

- 外部の風が静穏で気流感が期待できない場合や、観客席に日射が当たる時の対策として「気流創出ファン」を設置します。
- 「気流創出ファン」により、観客の体感温度を低減することで観戦環境の向上を図ります。



気流創出ファンの設置想定位置イメージ

外部空間の温度を下げる「ミスト冷却装置」

- 外部の入場ゲート付近の人だまり空間及び内部の一部に、水の気化熱を利用した「ミスト冷却装置」を設置します。
- 微細な水粒子を散布することで、周囲の空気温度を下げる効果が期待できます。

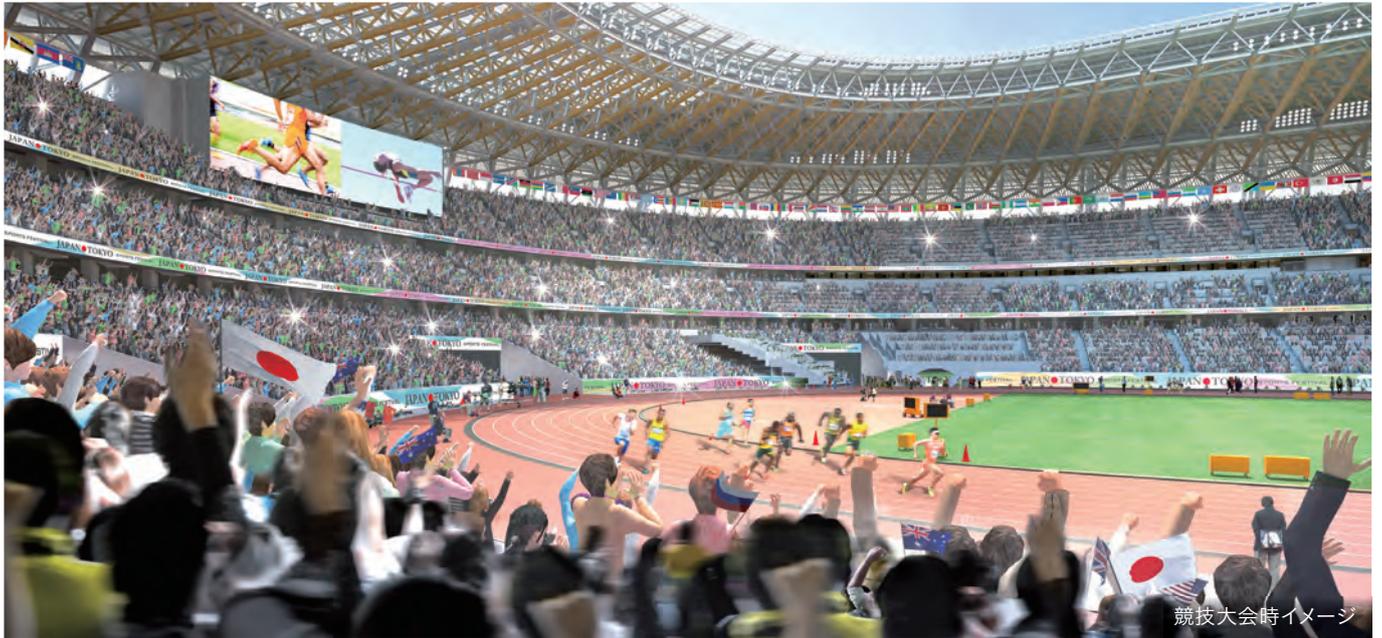


ミスト冷却装置イメージ

注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整備

スムーズに移動できる専用動線と諸室配置により、アスリートが使いやすく集中力を維持できる環境を整備するとともに、観客との一体感を創出するスタンドを造ります。また、高性能なフィールド整備システムにより、季節や天候によらずベストコンディションを維持できます。



競技大会時イメージ

スムーズに移動できる選手動線

陸上競技開催時の選手動線

- サブトラックからは、専用連絡通路を通り、練習用走路を経由してトラックに入れます。
- フィニッシュライン付近にインタビューゾーン、ドーピング関連諸室を配し、スムーズにアクセスできるようにします。

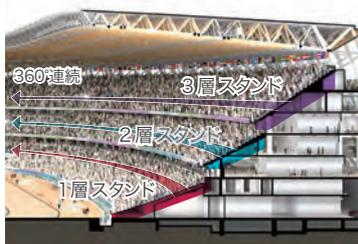
フットボール競技開催時の選手動線

- 選手専用バス駐車場及び専用エントランスを経由してすぐに更衣室へ移動できます。さらに、選手専用の通路を通り、スムーズにピッチへアクセスできます。
- 大会運営関係者のアクセスは専用の入口からとし、競技関係者との動線が交錯しない計画とします。

アスリートと観客の一体感を創出するスタンド

3層のスタンド構成

- スタンドの勾配を徐々に急にした「すり鉢状」の3層スタンドを、360°連続させ、フィールドを観客席で包み込むことにより、アスリートと観客の一体感を創出します。

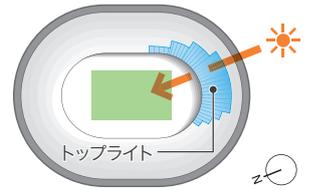


スタンド構成イメージ

天然芝育成のためのトップライト

日照分布シミュレーションから導いた最適な形状

- 大屋根の南側にトップライトを配置し、天然芝に効率よく自然光を取り込みます。
- トップライトの形状は、ピッチ面に対する日照分布シミュレーションから導いた冬期の天然芝育成に最も適した形状としています。



大屋根トップライトイメージ

高性能なフィールド整備システム

芝散水システム

- 天然芝舗装面を均一に散水するため、ポップアップ式スプリンクラーを整備します。
- 系統制御、タイマー制御、降雨センサー制御で運用管理します。

フィールド排水設備

- フィールド下部には、均一かつ迅速に排水可能な配管を埋設し、集中豪雨時におけるスムーズな排水に配慮した設備を整備します。

地中温度制御システム

- 芝の下部に全長約25kmの配管を埋設し、夏期に冷水、冬期に温水を流し年間を通して最適な天然芝の育成環境を整備します。

注) パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

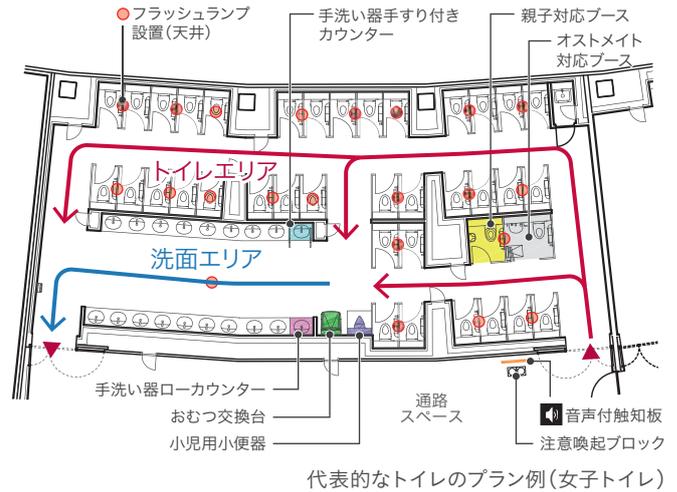
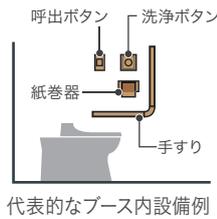
全ての人が安心して快適に観戦できるスタジアム

障害者等の関連団体(14 団体)とのワークショップにおける意見を踏まえ、障害・年齢・性別・国籍にかかわらず、様々な利用者への細やかな配慮をすることで、全ての人が安心して快適に利用できる環境を整備します。

全ての人が快適に利用できるトイレ計画

様々な利用者への細やかな配慮

- 高齢者利用を想定し、手すり付小便器、手すり付洗面カウンターを設置するとともに、全ブース内に手すりを設けます。
- 視覚障害者利用を想定し、一般トイレ内の全てのブースに JIS S 0026 型を採用します。
- 一般トイレ入口から見えやすい位置に親子対応ブース、オストメイト対応ブース、洗面エリア付近におむつ交換台を設置します。
- 小児利用を想定し、全ての小便器を受け部の低い低リップ型、洗面カウンターの一部をローカウンター型とします。また、女子トイレ内には 1 か所小児用小便器を設置します。
- 補助犬トイレは、内部と外部に 1 か所ずつ配置します。



全ての人が安心して快適に利用できる諸室

乳幼児関連諸室

- 1 授乳室は各階にバランスよく配置し、出入口付近にベビーカー置き場を併設します。また、車椅子利用者も利用できるようにします。
- 2 託児室及びキッズルームは、災害時において円滑に避難が可能な 1 階に配置します。
- 3 ベビーカー置き場はゲート付近の案内カウンターの近くに設置し、入場してすぐにベビーカーを預けることができます。

知的・精神・発達障害者に配慮した休憩室

- 4 興奮を鎮めるための部屋として、各階にバランスよく休憩室を配置します。



誰にでも分かりやすいサイン計画

- 様々な障害、年齢、国籍の方々に配慮した分かりやすいサイン計画を行い、ユニバーサルデザイン(UD)環境を実現します。

UDを必要とする利用者 サインにおける主な配慮点(例)

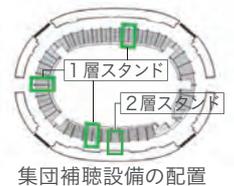
- 全盲の人……… 触知図、音声ガイド、点字ブロックなど視覚以外の情報を提供する
- 弱視の人……… 表示面、表示内容が大きくコントラストの強いものにする
- 聴覚障害者……… 視覚情報を提供する
- 車椅子利用者……… ゆっくり安全に見られる場所を確保する
- お年寄り・子供……… 低い視点を確保する
- 外国人……… ピクトグラムで表現する(一部多言語の併記)
- 知的障害者……… 情報をシンプルにする
- その他……… 案内所にインターホンを設置する

サイン計画におけるユニバーサルデザイン(UD)の基本方針

聴覚障害者への配慮

集団補聴設備の分散配置

- 聴覚障害者も様々な席から観戦できるように、スタンドの複数のエリアに集団補聴設備を整備します。



緊急対応設備

- 聴覚障害者に緊急事態をお知らせするために、主要なトイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置します。
- 南北サイドスタンドの大型映像装置で文字情報による安全な避難誘導を行います。



注)図等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

全てのエリアで安心して利用できる車椅子使用者の観戦環境

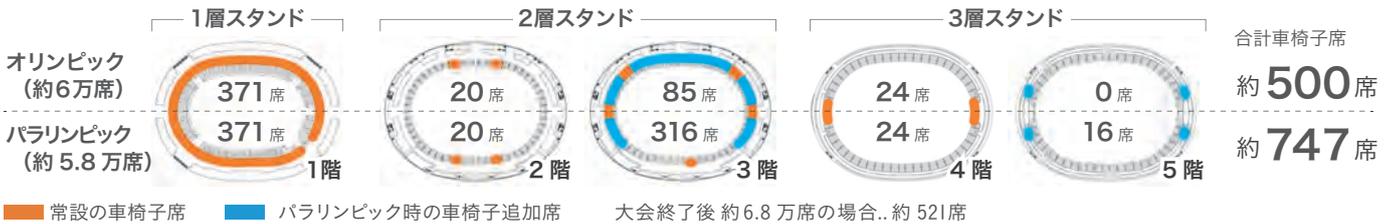
スタンドの全層・全階に車椅子席を分散させます。特に利用頻度の高い1層スタンドに、外部から段差なくアクセスできる車椅子席を多く配置し、客席からの見やすさや快適性を確保した、感動を分かち合える観戦環境を整備します。さらに、様々な使い勝手に配慮したトイレを用意し、全ての人が快適に利用できる環境を整備します。



1層スタンド(1階)からの観戦イメージ

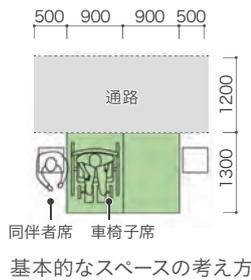
全てのエリアで車椅子使用者が観戦できるスタジアム

全ての階にバランスよく車椅子席を計画 (5階はパラリンピック大会開催時のみ / 席数は設計時のものを示す)



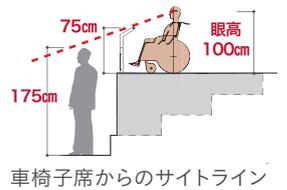
同伴者に配慮した車椅子席

- 同伴者席によって車椅子席が分断されず、2席が隣り合う座席配置とします。
- 車椅子席及び同伴者席は、各コンコースから段差なくアクセスできる場所に設置します。
- 観戦中に充電可能な電動車椅子用コンセントを整備します。



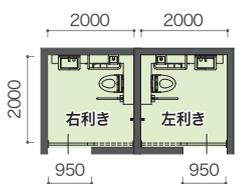
車椅子席のサイトライン

- 眼高の低い車椅子使用者のサイトラインを確保するために、眼高100cmを標準としています。
- 前列の人の身長175cmを想定し、前列の人が立ち上がった状態でも、車椅子席の視界を妨げない計画とし、一般席と同じ感動を味わえる観戦環境を整備します。



様々な利用者を想定した5タイプのアクセシブルトイレを設置

① 利き手に配慮した車椅子使用者用トイレ



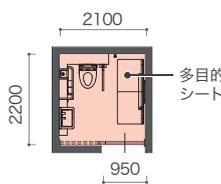
2室以上併設される場合は、利き手を選ばない対称レイアウトのトイレを隣接させ、設置します。

② オストメイト対応車椅子使用者用トイレ



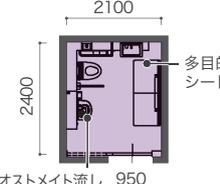
オストメイトを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

③ 多目的シート対応車椅子使用者用トイレ



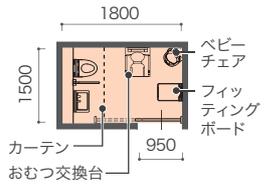
多目的シートを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

④ 多目的シート・オストメイト付車椅子使用者用トイレ



オストメイトと多目的シートを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

⑤ 同伴者とともに利用できるトイレ(仮称)



異性の同伴者との利用、LGBT※の方の利用を想定したトイレを設置します。

注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

※ LGBT:レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字で性的少数者を意味する。

全ての人々をフラットに迎え入れる“みんなのスタジアム”

年齢や障害に関係なく、全ての人々が、身体への負担が少なく安全に移動できる環境を整備します。スタジアムへは緩い勾配でアプローチができ、車椅子使用者や足腰の弱い方でも快適かつ安全にアクセスできます。主要ルートには誘導ブロックや音声案内サイン等を設置し、視覚障害の方を安全に迎えます。



全ての観客席まで安全に移動

足腰に負担をかけない3層構成のスタンド計画

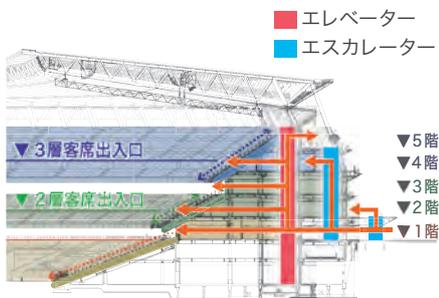
- スタンドは上り下りの移動距離の少ない3層構成とします。
- エレベーターは全ての階に着床します。2層及び3層スタンドまでのアクセスは専用のエスカレーターを設置し移動の負担を軽減します。また音声誘導等により、誰でも安全に移動ができる施設とします。

エレベーターの主な配慮事項

- ・かご操作盤(点字対応)
- ・ボタン(浮文字)
- ・モニター付きインターホンボタン
- ・かご操作盤(車椅子専用)
- ・手すり
- ・30人乗りIPC対応
- ・防犯カメラ

エスカレーターの主な配慮事項

- ・ステップ4周に区画線
- ・緩傾斜くしゴム(黄色)
- ・入口と出口の注意喚起ブロック
- ・3枚水平ステップ



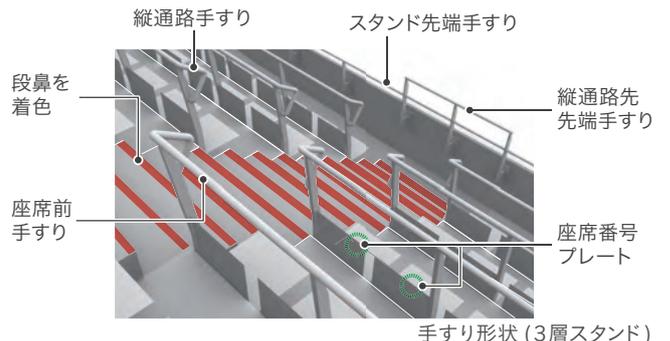
観客席通路空間のバリアフリー

縦通路への手すり設置

- 3層全ての縦通路に手すりを設置し、足腰の弱い方々の安全な移動に配慮します。

縦通路の視認性向上

- 通路の視認性を高めるために、観客席の縦通路に着色を施します。さらに、段鼻(だんばな)部は別の色で着色することにより踏み外し・つまずきを防止します。
- 座席背もたれ上部の見やすい位置に座席番号のプレートを設置します。(墨字及び点字で表示)

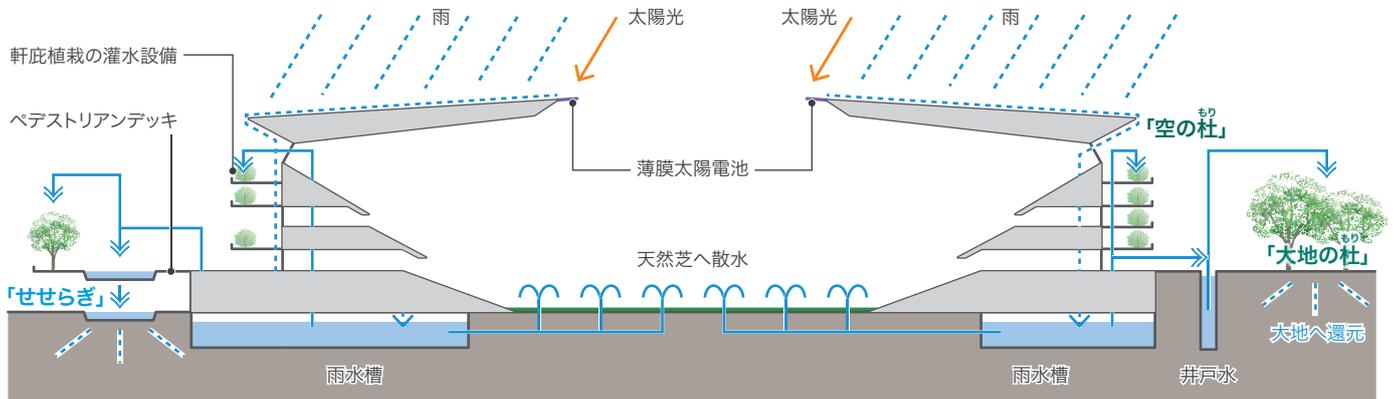


注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

※色は今後決定予定

地球にやさしい低環境負荷スタジアム

自然の力を最大限に活用した環境共生型のスタジアムを創ります。太陽光発電や、雨水・井戸水の有効利用等、自然エネルギーを積極的に利用します。さらに、高効率機器を効果的に運用するためのエネルギー管理システム(BEMS)や、無駄なエネルギー消費を抑えるシステムにより、実効性の高い省エネルギー運用を実現します。



自然エネルギー利用イメージ

自然エネルギーの積極的な活用による環境負荷の低減

大屋根先端のガラスに薄膜太陽電池を設置

- 建材一体型シースルー薄膜太陽電池を、全ての観客席から見える大屋根先端のガラスに設置します。



大屋根先端の太陽光発電設備イメージ

敷地全体で雨水や井戸水等を有効利用

- 屋根や舗装に降った雨は雨水槽へ集水した後に、「空の杜」や軒庇植栽の灌水設備に利用します。
- 「大地の杜」の緑地への灌水設備は井戸水と雨水を利用し、水を大地へ還元することで水資源の循環を図ります。
- 災害による断水が発生した場合は、緊急用の水源としても井戸水を利用できます。

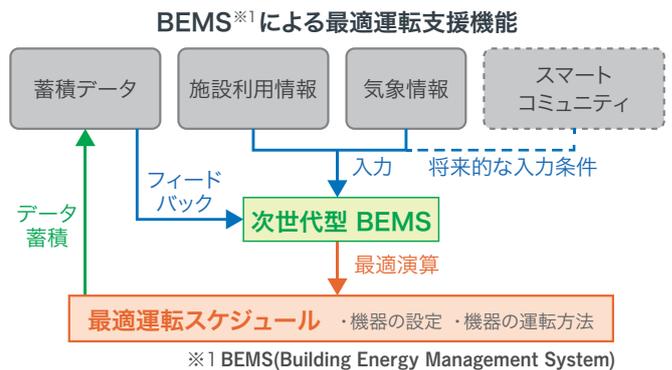
施設運用の特性に配慮した省エネルギーシステム

運用管理を支援する次世代型 BEMS^{※1}の導入

- 環境負荷軽減のためには、高効率機器の導入に加えて設備を効率的に運用することが重要です。建物の特性や稼働率・気象状況・過去の実績データをもとに最適な運用管理を支援する次世代型のBEMS^{※1}を導入します。

待機電力及び変圧器による負荷損失の削減

- 本施設の設備稼働率は、イベント開催時に比べ、非開催時は小さくなるため、未使用となる電気系統を分ける計画とすることで、非イベント時に変圧器を遮断することが可能となり、待機電力や変圧器による損失を削減し、無駄なエネルギー消費を抑えます。



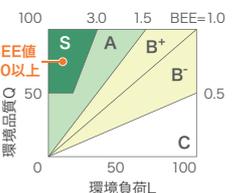
※1 BEMS(Building Energy Management System)

CASBEE 最高ランクの達成

- 環境技術の採用により、建築物総合環境性能評価システム(CASBEE^{※2})による建築物の環境性能は、最高ランクであるSランク(BEE値3.0以上)を満足します。

※2 CASBEE(Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) (一財)建築環境・省エネルギー機構による建築物の環境性能格付け手法で、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステム。

- 東京都建築物環境計画書制度に基づく省エネルギー性能基準の「建築物の熱負荷(PAL*)低減率20%以上、設備システム全体のエネルギー利用の低減率(ERR)11%以上」を達成します。



注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

地域防災力を高める災害に強いスタジアム

東京都の広域避難場所に位置する本スタジアムは、非常時における人命の安全確保を第一に、大地震後も大きな補修をすることなく安全に使用できる耐震性能を確保します。ライフライン回復後に速やかに所要機能を復旧できるBCP[※]対策にも配慮します。

整備水準

- 耐震性能** | 大地震後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できること、建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とする。
- BCP対策** | ライフラインが途絶した場合等においては、一時的に所要の機能を維持できなくなるが、一部の機能を維持させることにより最低限必要な業務の遂行を可能とし、ライフラインの回復等に伴い、所要の機能を速やかに復旧できる水準を確保する。
- 帰宅困難者対策** | 東京都帰宅困難者対策条例に基づき、集客施設として施設内に多数の帰宅困難者が生じた場合に、施設利用者の保護のために必要な措置を講じる。施設利用者等の飲料水、食糧など必要な物資を備蓄するための防災備蓄倉庫を整備する。

※Business Continuity Plan (事業継続計画)：自然災害や事故で被害を受けた場合においても、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画



地震に強いスタジアム

1 耐震性に優れた制振構造の採用

• スタンドの上層階は、観客席の斜め梁と鉄骨ブレースにより地震時の変形を抑えます。比較的柔らかいフレームで構成した下層階 (B2階～1階) には、オイルダンパーを集中的に配置し、効率よく地震エネルギーを吸収することで揺れを抑える「ソフトファーストストーリー制振構造」を実現し、スタジアム全体の高い耐震安全性を確保します。

災害時の効率的な避難を実現

2 迅速に避難できる観客席

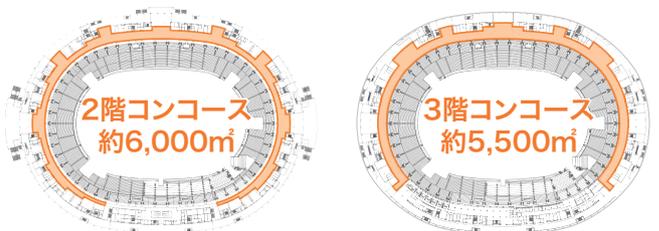
• 観客の避難安全性を第一に考えた施設計画によりスムーズな避難を実現します。どの席からも外部までトータルで**15分以内** (3層スタンドは10分以内) で安全に避難できる計画です。

• 車椅子使用者等の避難においては、避難誘導用エレベーター及び一時避難エリアを分散配置し、安全に避難できる環境を整備します。

施設利用者の保護と災害時の施設機能維持

3 災害時待避スペース

• 2階と3階のコンコース (約10,000㎡) を待避スペースとして利用できる計画です。災害時に必要な照度の確保はもちろん、コンコースには災害時に携帯電話充電や電気ストーブ等の利用が可能なコンセントを設置します。



4 災害時の施設機能維持対策

停電対策

- 非常用発電機
- 保安用発電機
- ハイブリッドソーラー外灯
- マンホールトイレ15個

上下水道使用不能時の各種水槽対応

- 上水槽 / 中水槽 / 汚水槽

防災備蓄倉庫

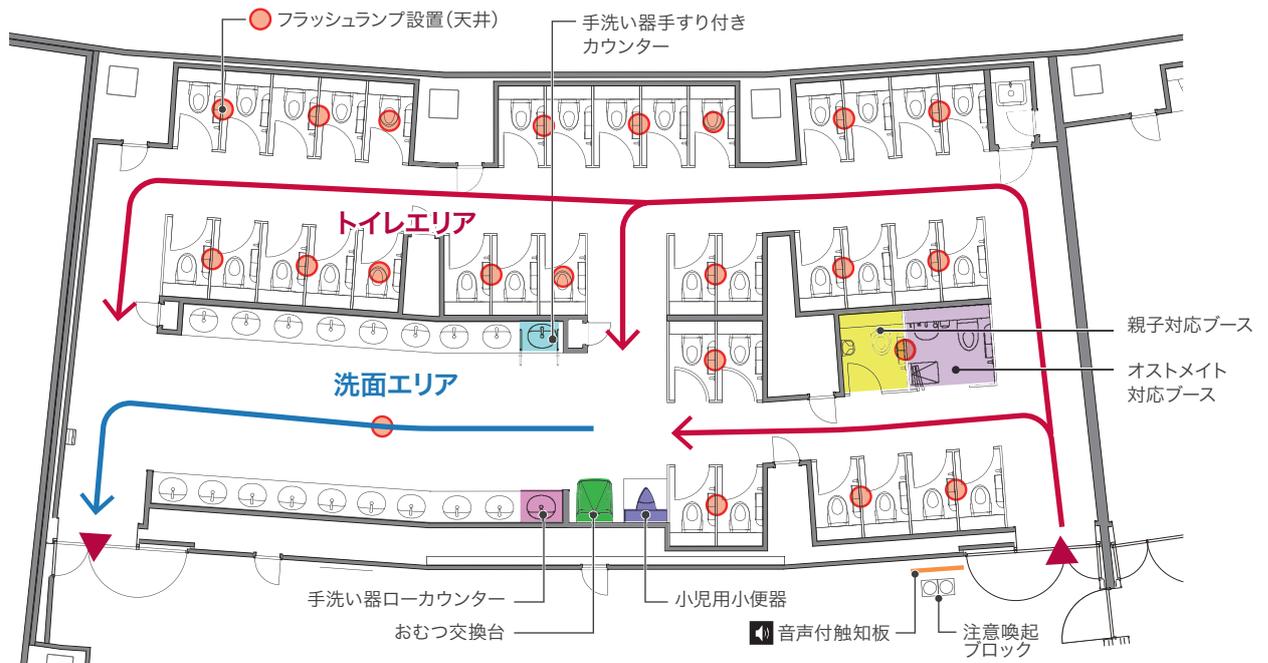
- 約480㎡ (約8万人相当対応)

注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

“みんなのスタジアム”を実現する充実したトイレ計画

様々な工夫を盛り込んだトイレを整備します。年齢・性別・障害により異なる多様なニーズにきめ細かく対応するとともに、緊急時などにおける安全性に配慮した環境を整備することで、みんなが安心して快適に利用できるスタジアムを実現します。

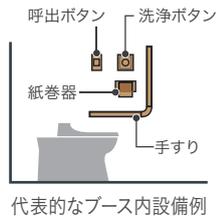
全ての人々が快適に利用できるトイレ計画



代表的なトイレのプラン例(女子トイレ)

様々な利用者への細やかな配慮

- 高齢者利用を想定し、手すり付小便器、手すり付洗面カウンターを設置するとともに、全ブース内に手すりを設けます。
- 視覚障害者利用を想定し、一般トイレ内の全てのブースに JIS S 0026 型を採用します。
- 一般トイレ入口から見えやすい位置に親子対応ブース、オストメイト対応ブース、洗面エリア付近におむつ交換台を設置します。

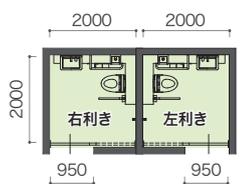


- 小児利用を想定し、全ての小便器を受け部の低い低リップ型、洗面カウンターの一部をローカウンター型とします。また、女子トイレ内には 1 か所小児用小便器を設置します。
- 補助犬トイレは、内部と外部に 1 か所ずつ配置します。
- 聴覚障害者に緊急事態をお知らせするために、主要なトイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置します。



様々な利用者を想定した5タイプのアクセシブルトイレを設置

① 利き手に配慮した車椅子使用者用トイレ



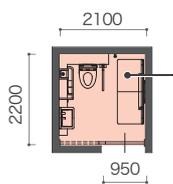
2室以上併設される場合は、利き手を選ばない対称レイアウトのトイレを隣接させ、設置します。

② オストメイト対応車椅子使用者用トイレ



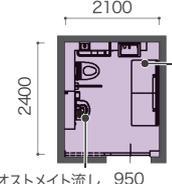
オストメイトを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

③ 多目的シート対応車椅子使用者用トイレ



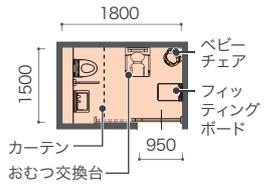
多目的シートを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

④ 多目的シート・オストメイト付車椅子使用者用トイレ



オストメイトと多目的シートを搭載した車椅子使用者用トイレを設置します。

⑤ 同伴者とともに利用できるトイレ(仮称)



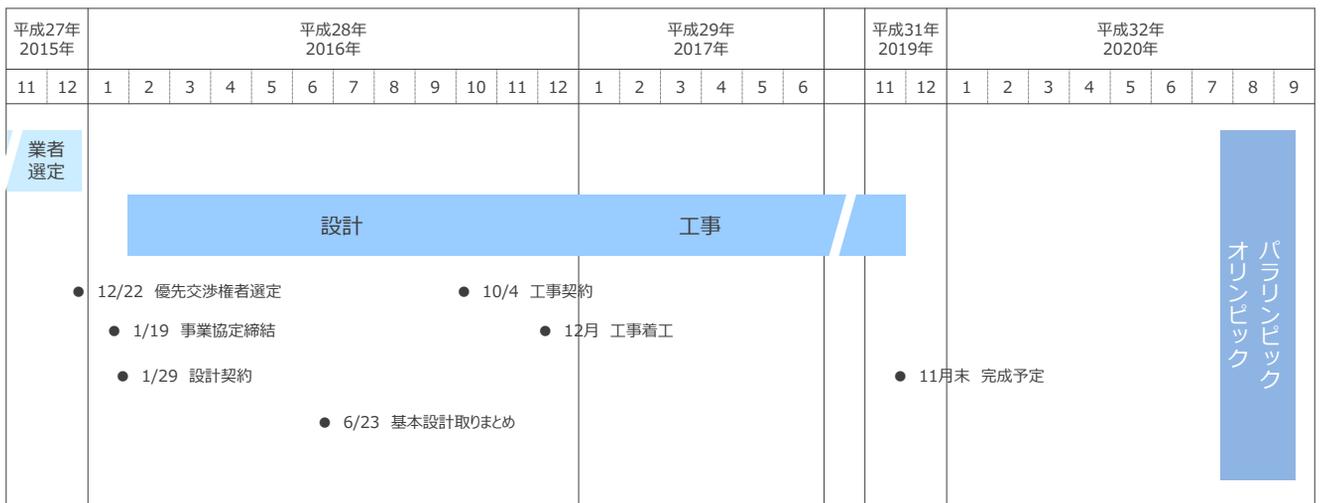
異性の同伴者との利用、LGBT※の方の利用を想定したトイレを設置します。

注) 図等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。

※ LGBT: レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字で性的少数者を意味する。

新国立競技場整備事業

計画敷地	東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号他
敷地面積	約113,000㎡
建築面積	約72,400㎡
延べ面積	約194,000㎡
階数	地上5階、地下2階
高さ	約47.4m
構造	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造他
座席数	完成時約60,000席 (将来、約80,000席への増設が可能な計画)
事業工期	平成28年(2016)10月(契約) ～平成31年(2019)11月(完成・引き渡し)
事業者	新国立競技場整備事業 大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体



※ 上記スケジュールは、現時点における予定です。